

幼稚園における絵本・紙芝居の利用に関する現状

－ 司書資格受講生による実習園実態調査をもとに －

児玉 孝乃（図書館学）

1. はじめに

平成21年度より、東海学院大学短期大学部の学生で「司書資格」の取得可能な学科は、児童教育学科、幼児教育専攻の学生のみとなった。

幼児教育の学生は、おもに『幼稚園教諭2種免許状』と『保育士証』の取得を目的に学習している。本学では、さらに、「司書資格」を取得することができる。

「幼稚園教諭」、「保育士」の資格と「司書資格」の共通で専門的な内容は、子どもに関する資料の提供と利用である。

幼稚園における教材については、「学校教育法」第3章 幼稚園 第23条のなかで、「日常の会話や、絵本、童話等に親しむこと」と規定されている。¹⁾ 更に、「幼稚園教育要領」第2章 ねらい及び内容 言葉のなかで、「絵本や物語などに親しみ」とあり、「1ねらい」、「2内容」、「3内容の取扱い」の各項目にも重要性が言及されている。²⁾

公共図書館の児童サービスにおいては、児童図書館員や図書館員の専門的業務として、①子どもの資料に関する知識、②子どもに関する知識、③子どもと本を結びつける技術・方法が、必要不可欠とされている。³⁾

幼稚園実習において、「児童サービス論」、「図書館サービス論」で学んだ内容は、園児に対しても「読み聞かせ」、「ストーリーテリング」、「紙芝居」、「昔話」、「児童文学」等の資料に対する知識が発揮されるものと考えられる。

2. 調査の目的

「図書館サービス論」の授業の一環として、実習で園児に直接接する学生にとって、実習先の①資料の実態を知ること、②資料の利用方法

を把握すること、③資料を有効に活用すること、④問題点、課題を見つけて、今後の学習に活かしていくことを目的としている。

更に、「幼稚園教諭」と「司書資格」との共通資料、とりわけ、絵本・紙芝居の重要性と資料の提供と利用の理解を図ることを目的としている。

3. 調査対象と調査方法

1) 調査対象学生

平成21(2009)年度の幼児教育専攻で、司書資格を受講している2年生・36名を対象

2) 調査期間

平成21年6月1日(月)～6月20日(土)の3週間の幼稚園(私立)実習期間

3) 調査方法

課題レポート「実習園を調査しよう! : 実習園の資料と利用について」を設定し集計大項目を①～⑥まで設定、②については、項目の内容により数字を埋める方法、③～⑥は、自由記述式、自由筆記

一部学生に聞き取り調査を実施

4) 幼稚園(私立)実習園25校

回収率 100%

4. 調査内容

①実習園名 ②調査項目(教員数、園児数、絵本・紙芝居・その他資料の冊数、整理方法、排架方法、園外貸出状況、年間購入冊数)

③資料の利用方法 ④実習園における学生自身の実習内容 ⑤調査してわかったこと

⑥問題点・反省点・今後の課題

数名の学生が同じ幼稚園に実習していることもあり、平成19・20年度に実習園調査を実施した卒業生の調査レポートも参考とした。

5. 実習園調査内容の結果

5-1. 実習園地区別人数及び実習園数

表1. 地域別実習園数 単位：人 ()内は実習園数

	岐阜	西濃	中濃	東濃	飛騨	他県	計
平成21	14(9)	14(9)	6(5)	1(1)	0(0)	1(1)	36(25)
平成20	18(12)	4(3)	10(6)	1(1)	2(1)	3(3)	38(26)
平成19	21(15)	6(4)	11(8)	0(0)	1(1)	10(10)	49(38)
計	53(36)	24(16)	27(19)	2(2)	3(2)	14(14)	123(89)

平成19・20年度は参考資料

表1は、どの地区に実習を行い、実習園が何校であるかを見たものである。平成21年度は、25校の幼稚園で実習が行われている。

実習園地区は、岐阜地区と西濃地区へ各14人、9校の園に実習を行っている。25校の同じ園に14人が実習を行っている。

東濃、他県は各1人である。

参考までに、平成19・20年度を見ると平成20年度は、平成21年度とほぼ同数である。

平成19年度は、岐阜地区に集中し、次いで中濃地区への実習が多く、他県からの学生も多かったことがわかる。

この3年間で幼稚園教諭をめざし、司書資格を受講した学生が、合計123人である。

20人前後の教員数を要する園は、各1校、25人以上の教員数を要する園も1校である。

園児数においては、200人前後の園が、6校、100人前後の園が4校である。

25人以上の園児数を要している園が、1校である。

5-3. 資料の構成

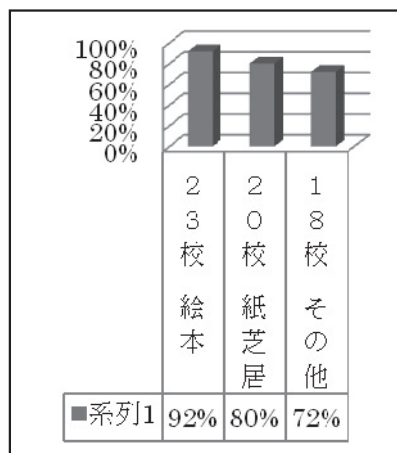


図1. 資料の構成 (複数回答)

図1は、幼稚園の資料構成について見たものである。絵本・紙芝居・その他の資料で調査を行った。

絵本の所蔵冊数は、23校で9割にのぼる。紙芝居の点数は、20校で8割の所蔵である。

実習園25校のうち、絵本を所蔵しない残りの2校は、園児に、園独自に選書した絵本を毎月1冊購入させ、利用している園である。

表2. 教員数と園児数 単位：校

教員数		園児数	
区分	園数	区分	園数
5人未満	3	50人未満	4
10人未満	8	100人未満	4
15人未満	11	150人未満	4
20人未満	1	200人未満	6
25人未満	1	250人未満	6
25人以上	1	250人以上	1

5-2. 教員数と園児数

表2は、実習園の教員数と園児数を見たものである。15人未満の教員数が最も多い。

紙芝居については、2割の幼稚園が所蔵をしてない。また、その他の資料については、教員用の指導書・教材資料・雑誌・事典等や園児用の図鑑・童話・物語等を所蔵している園が、18校で7割にのぼる。この中には、ビデオ・エプロンシアター等を所蔵している園も含まれる。

紙芝居は、絵本と異なり、職員室・事務室管理が中心であった。

そのため、不明の5校については、調査されず、教員の確認がとられていない。

5-4. 絵本の所蔵冊数

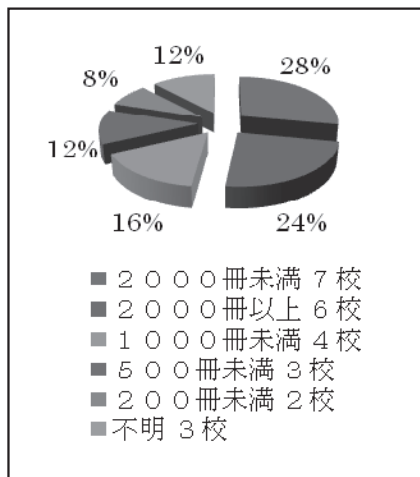


図2. 絵本の冊数

図2は、絵本の所蔵冊数を見たものである。1500冊以上所蔵する園が、13校で5割以上にのぼる。2000冊以上所蔵する園も6校と絵本の所蔵率は高い。1000冊未満の所蔵園は、4校である。200冊～500冊未満の園も5校、2割である。

不明3校については、多すぎてわからないが2校、残りの1校は、園の教育方針により、絵本をほとんど所蔵しない園である。また、人気の絵本、利用の多い絵本については、複本が用意されていた。

5-5. 紙芝居の所蔵点数

図3は、紙芝居の所蔵点数を見たものである。300点以上所蔵している園が、6校と最も多い。50点未満4校、100点未満4校である。200点未満3校、300点未満3校である。絵本より点数にばらつきがある。

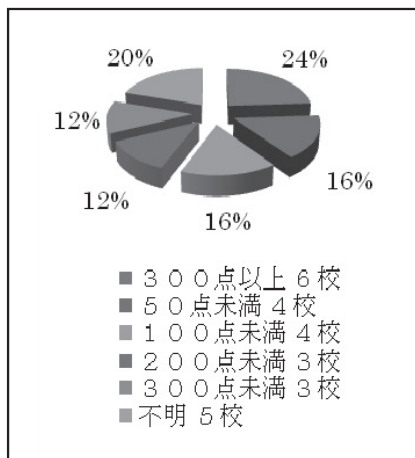


図3. 紙芝居の点数

5-6. 絵本の整理法

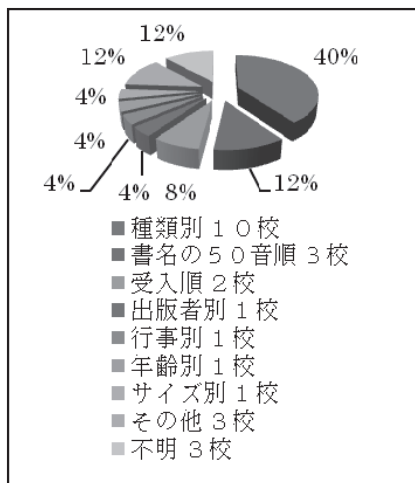


図4. 絵本の整理法

図4は、絵本の整理法を見たものである。NDC（日本十進分類法）による整理法は、全くない。

絵本の種類別が、10校、4割である。種類別とは、絵本の主題別・内容別・分野別・テーマ別等すべてを含む。

書名の50音順の整理法が、3校である。

受入順に整理している園が、2校ある。

受入順は、図書資料と同様、登録し、原簿管理する方法である。また、出版者別、行事別、年齢別、サイズ別が、各1校である。

園児の利用しやすい工夫、教員の手間が考慮されている。その他については、特別な整理をせず、自由に利用させている園が、3校ある。

不明については、未記入である。

5-7-2. 絵本・紙芝居の排架方法

表3. 排架方法

単位：校

書架(本棚)	20	80%
ボックスで対応	1	4%
不明	4	16%

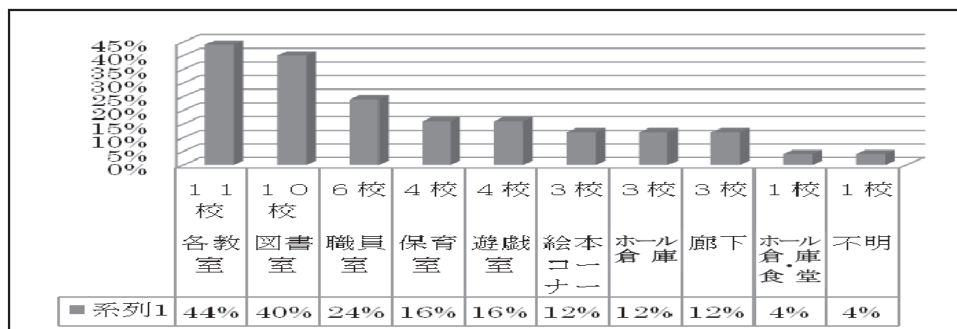


図5. 絵本・紙芝居の排架場所 (複数回答)

5-7. 絵本・紙芝居の排架場所と排架方法

5-7-1. 絵本・紙芝居の排架場所

図5は、絵本・紙芝居を園内の、どこに排架しているかを見たものである。各教室が11校と4割を超え、クラス別、年齢別等、教室に排架している園が最も多い。次いで、図書室が10校と、4割である。

保育室、遊戯室が、各4校である。絵本コーナー、ホール、廊下が、各3校である。

倉庫・食堂(ランチルーム)に排架している園が、1校となっている。

各教室、図書室、保育室、遊戯室等に集中排架している園も、分散して絵本コーナー、廊下を利用して排架している。

職員室(事務室含む)の排架については、教員用の教材、指導書等(図1. 資料の構成)である。ほかに、紙芝居の管理が中心で6校、2割以上である。また、大型絵本・大型紙芝居も職員室(事務室)管理の園が大多数である。

不明の1校については、絵本・紙芝居をほとんど所蔵していない園である。

表3は、絵本をどのように排架しているかを見たものである。20校、8割の園が書架(本棚)に絵本を排架し、利用している。

年齢別ボックスに収納し、園児に戻させ利用している園が、1校ある。不明の4校については、職員室の管理のため確認されていない。

ほか1校については、絵本・紙芝居をほとんど所蔵していない園である。

書架(本棚)への排架方法は、装備にもあられ、各園で工夫がこらされている。園児の目線と排架に配慮している内容は、以下の点である。

- ①書架の高さを園児の背の高さに設置
- ②年齢別に絵本にシールで色分け
- ③年齢別にボックスに収納
- ④サイズ別にテープで色分け
- ⑤厚い絵本、薄い絵本等、本の厚さで並べる
- ⑥表紙を見せる平置きをして、園児が手に取りやすい方法で並べる

絵本・紙芝居の排架場所、排架方法は、教員の管理に重点がおかれている。即ち、収納・収集・提供・利用に関する方法である。装備方法の工夫については、園児が積極的に自ら利用し、自ら元にもどす指導に重点がおかれている。

5-8. 絵本・紙芝居の利用方法と担当者

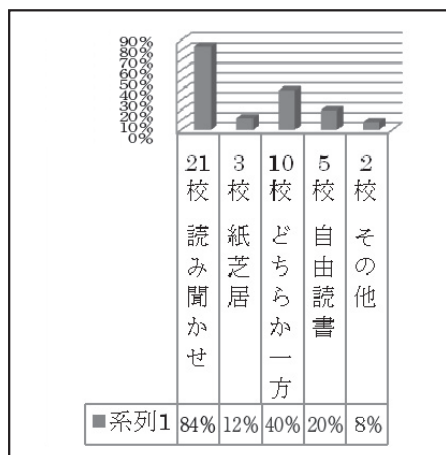


図6. 利用方法（複数回答）

5-8-1. 絵本・紙芝居の利用方法

図6は、絵本・紙芝居の利用方法を見たものである。定期的に絵本の読み聞かせを実施している園が、21校、8割にのぼる。

紙芝居については、3校と絵本ほどの利用がないことがわかる。絵本、紙芝居のどちらか一方を交互に選択し、利用している園が10校、4割である。両方を読み聞かせている園1校を含む。自由読書が5校、2割である。

園では、毎日、定期的に、状況において不定期に、教員が絵本・紙芝居の読み聞かせを行っている。これ以外に、積極的に、園児に自由読書が行われている。その他の2校については、園独自の教育方針により、絵本の読み聞かせを行っていない園である。

5-8-2. 絵本・紙芝居の担当者

表4. 読み聞かせの担当者（複数回答）

単位：校

教員	21	84%
保護者	2	8%
ボランティア	1	4%
小学校協力	1	4%
不明	3	12%

表4は、絵本・紙芝居の読み聞かせの担当者を見たものである。教員による読み聞かせが、21校、8割にのぼる。

教員の読み聞かせに加え、保護者が毎日交替で読み聞かせを実施している園が、1校、毎月1回、保護者2人による読み聞かせを実施している園が、1校ある。

ボランティアについては、毎週火曜日あるいは水曜日に1回、「絵本おばさん」（退職教員）の名で読み聞かせに来てくれる園が、1校ある。

小学校協力については、園と併設する小学校の6年生が、毎日、木・金曜日の2～3時限目の休み時間に、交替で紙芝居を読み聞かせてくれる園が、1校ある。

不明3校については、絵本の所蔵がほとんどない園である。また、園の教育方針で読み聞かせをしない園である。

5-9. 絵本・紙芝居の利用時間帯

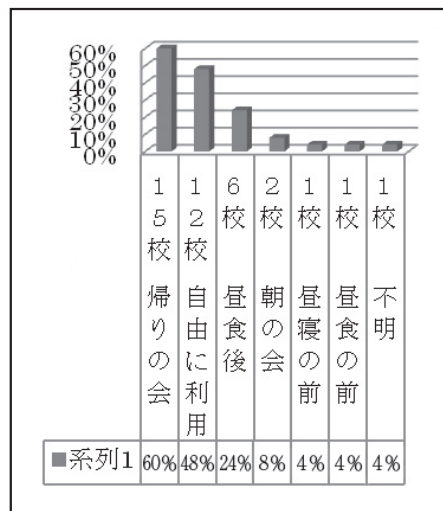


図7. 利用時間帯（複数回答）

図7は、絵本の読み聞かせ・紙芝居が、毎日どの時間帯で実施されているかを見たものである。

帰りの会の前後、バス待ち、保護者の迎え待ち等、15校、6割がこの時間帯である。

次いで、教員による毎日の定期的な読み聞かせ以外の時間帯としては、時間を設定しないで

自由に園児に利用させている園が12校、5割である。昼食後の利用時間帯が6校、朝の会の利用時間帯が、2校である。昼食前が、1校、昼寝の前が、1校の時間帯に利用している。

不明が1校、未記入である。

5-10. 絵本の園外貸出状況

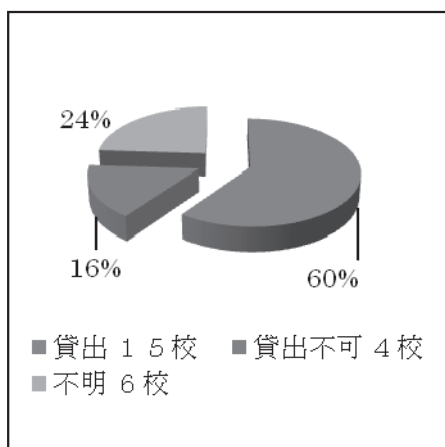


図8. 絵本の園外貸出

図8は、絵本の園外貸出を行っているかどうかを見たものである。15校、6割の園が園外貸出を行っている。夏休み期間中に保護者にも貸出を行っている園が、1校あった。

園内利用に限る園は、4校である。うち3校の園は市町村立図書館から、毎月1～2回の頻度で絵本の貸借を受けていた。また、直接、市町村立図書館に出向き、利用していた。

不明6校については、絵本の所蔵冊数が少ない、園の教育方針、未記入によるものである。

5-11. 絵本の園外貸出方法と貸出日数・貸出冊数

5-11-1. 絵本の園外貸出方法

図9は、絵本の園外貸出の方法を見たものである。(図8. 絵本の園外貸出)を行っている15校についての貸出方法の内訳である。

貸出記録をとっている園が、8割である。

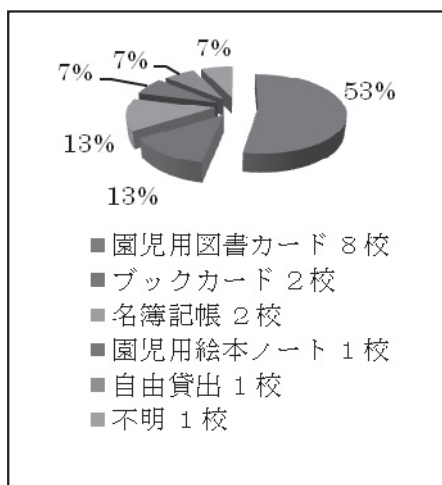


図9. 絵本の園外貸出方法

園児用図書カード(絵本カードを含む)、教員手製のカードを持たせ、教員が記名する貸出方法の園が、8校、5割である。

ブックカード方式は、絵本に貼付したブックカードを抜いて、そのカードに教員が記名する貸出方法の園が、2校である。

名簿記帳とは、絵本の書名を園児名簿に、教員が記帳する貸出方法の園が、2校である。

園児用絵本ノートは、園児用図書カードの貸出方法と同じであるが、絵本を返却する際に、保護者のコメントを記述してもらう親子一体型の貸出方法の園が、1校ある。

保護者のコメントとは、絵本を読んでいる園児の様子、絵本の取り扱い方等を観察し、書き入れてもらうものである。園児、保護者、教員の三者のコミュニケーションを図っている。

自由貸出とは、カード、ノート等、何も書かせないで、自由に貸出が行われている園が、1校ある。

不明1校については、学生が、貸出の担当ではなかったため、確認できていない。

園外貸出に際しては、代本板を貸し出した絵本の排架場所に置く園が、2校あった。

園外貸出を受ける園児に、カバン・風呂敷を常時用意させ、更に、レッスンバック(ブックバック)に入れて貸し出す。絵本、風呂敷の扱い方、絵本を大切に扱うマナーを指導しながら貸出を行っている園が、2校あった。

5-11-2. 絵本の園外貸出日数と園外貸出冊数

表5. 貸出日数・貸出冊数

貸出冊数	貸出日	返却日	期間	校
1冊	火	火	7	1
	水	水	7	5
	木	木	7	3
	金	金	7	2
	金	月	4	3
	月・水・金	貸出日から3日間		1

表5は、園外貸出の日数と冊数を見たものである。図8の15校による園外貸出は、基本的に冊数1冊に対し、火曜日～金曜日までの7日間貸出が、11校である。金曜日に貸し出して、月曜日に返却する4日間貸出の園が、3校ある。月・水・金に貸し出した曜日から、3日間の貸出の園が、2校である。

5-12. 絵本の園外貸出対象年齢

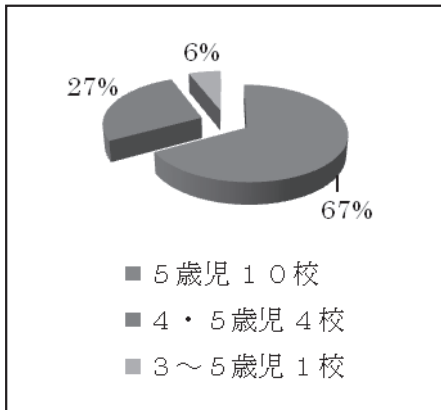


図10. 貸出対象年齢

図10は、絵本が何歳児を対象に、園外貸出(15校)されているかを見たものである。

5歳児年長に園外貸出を実施している園が、10校、7割弱である。

4・5歳児、年中・年長に貸し出している園が4校、3割弱である。

3～5歳児、年少～年長まで、年齢を制限せず貸し出している園が、1校である。

5-13. 年間資料購入冊数

図11は、絵本・紙芝居を年間何冊購入しているかを見たものである。

20冊未満(1冊～19冊)を購入する園が、8校、3割で最も多い。

100冊未満(20冊～99冊)を購入する園が、3校である。

150冊以上(150冊～200冊)を購入する園が、2校である。

年度により不定期に購入している園が、1校である。全く購入しない園が、1校、園児に毎月1冊園指定の絵本を購入させ指導している園が、1校である。

不明9校については、園の行事により調査時間がなかった、調査しなかった、未記入によるものである。

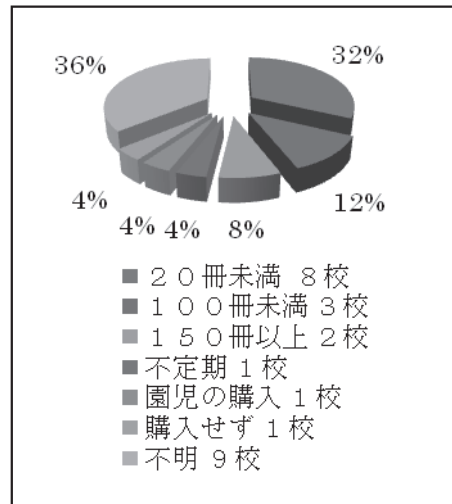


図11. 年間資料購入冊数

6. 絵本・紙芝居に関連した学生の実習内容

表6. 実習内容

単位:人

読み聞かせ	14	56%	25校
貸出の支援	6	40%	15校
返却の支援	2	13.3%	
絵本の整理・整頓	1	6%	

実習園における絵本・紙芝居を使った学生の主な実習内容は、14人、6割弱が読み聞かせであった。

絵本の園外貸出が行われている15校では、貸出の手伝いが6人、4割である。

返却の手伝いが2人、1割強、貸出返却の支援あわせて5割強である。絵本の排架の整理、返却絵本の整理は、1名のみであった。

絵本を大切にしている心、マナー教育の指導が行われているが、2人である。

市町村立図書館との連携が2人、保護者との三者によるコミュニケーションがとられているが、2人である。

その他の内容としては、新しい絵本が少ないが、5人ある。また、絵本の園外貸出が行われると良いが、1人となっている。

7. 調査してわかったこと

表7. 園の取り組み (抜粋)

単位：人

自由に絵本が読めるような環境づくりがされている	12
人気のある絵本、基本的な絵本が複本で用意されている	7
季節・行事・内容別等に利用しやすく分けられている	2
読み聞かせの事前準備(20回読み、事前読み)等が継続して行われている。	2
貸出に際し、風呂敷で絵本を包み、物を大切にしている心とマナーを身につけさせている	2
市町村立図書館との連携がある	2
園児・保護者・教員との連携がなされている	2
新しい絵本が少ない	5
絵本の貸出が行われると良い	1

表7は、絵本・紙芝居に関しての園の取り組みの調査内容を抜粋したものである。

園児が自由に絵本を手にとって、利用できる環境づくりがされているが、12人と多い。

園児に人気の絵本、読み継がれている絵本の充実、複本が用意されているが、7人である。

園児が興味を持てるよう、季節・行事・内容(交通安全、食育等)により、利用しやすい配慮がされているが、2人である。

読み聞かせの前に、継続した事前練習が行われているが、2人である。

8. 実習を終えての反省点・課題・問題点

表8. 実習を終えた感想 (抜粋)

単位：人

読み聞かせ前後の集中のさせ方、言葉かけ、気配りの方法	8
読み聞かせ前のルールづくりの必要性	4
読み聞かせ前の事前練習の必要性	3
読み方、スピード、感情移入の方法	3
絵本の選書方法(季節・行事・年齢別等)	5
絵本の乱暴な取り扱い等、マナー教育の必要性	7
絵本の取り合いによる喧嘩	5
未返却絵本への対応	2
汚損、破損の修理の必要性	2
定期的な整理・整頓の必要性	1
園児と信頼性が結べた	1

表8は、幼稚園実習を終えて、学生自身の反省点、今後の課題、問題点を抜粋したものである。絵本の読み聞かせの観点では、絵本を読み聞かせる前、読後に静かにさせ、集中させる方法、言葉かけの不安、気配りの方法をあげた学生が、8人と最も多い。読み聞かせ前のルールづくりが必要と感じている学生が、4人ある。

読み聞かせの事前練習の必要性、重要性が、3人である。読み方、スピードに気をつける必要が、3人である。読み聞かせ用に、どんな絵本を選んだらよいか迷うが、5人ある。

園児の絵本に対する問題点としては、絵本の

乱暴な取扱いを上げた学生が7人と多い。

絵本の取り合いによる喧嘩が問題であるが、5名ある。自由な貸出方法、何も書かせない貸出を行っている園では、未返却絵本がある。そのため保護者へのお願い、返却マナーの必要性をあげた学生が、1人ある。

絵本の管理については、前述の絵本の取り合い、喧嘩等で破損、汚損による修理の必要性が、2人ある。また、定期的な絵本の整理・整頓をあげた学生も、1人ある。

園児との信頼関係に言及し、満足の得られた実習期間をあげた学生が、1人となっている。

9. まとめ

幼稚園実習（私立）における実態調査の結果は、幼稚園の規模により、幅はあるものの、絵本の所蔵冊数は、平均1300冊、紙芝居の所蔵点数は、平均130点であった。

絵本の整理法は、一般的な図書館のNDC（日本十進分類法）ではなく、装備方法において、園児が利用しやすく、教員が管理しやすい工夫がなされ、園児の目線で整理・装備されていた。

園児の背の高さに排架、種類別、年齢別、行事別、サイズ別等に分けられ、色テープ、色シールを用いるなど、さまざまな工夫がなされ、自由読書ができるような環境づくりがされていた。

絵本の排架場所は、クラス別教室、図書室が多く、書架（本棚）による排架が中心であった。

保育室、遊戯室等、各園の実情にあわせた排架場所が設定され、部屋のみならず、コーナー、廊下等にも利用環境が拡大していることがわかった。

紙芝居については、形態の特質により、職員室、事務室の管理が中心であった。また、大型絵本、大型紙芝居の管理も同様である。

絵本の読み聞かせは、教員が毎日、定期的に行っている園が、8割であった。教員以外の読み聞かせについては、ボランティアや保護者、小学校の支援が行われていた園があった。

自由読書を除き、最も絵本の利用が多い時間帯は、帰りの会の前後であることがわかった。

園児がバス、保護者の迎え等、待ち時間の利

用である。また、昼食の前後、朝の会、昼寝の前等にも利用され、その度に教員の読み聞かせが行われていた。

絵本の園外貸出については、6割の園で実施され、園児用の図書カード・絵本カード（教員の手製）に教員が記名し、貸し出しが行われていた。基本的に1冊、7日間の貸出が9割であった。貸出対象年齢も5歳児への貸出が中心で、7割であった。貸出については、地域の図書館を有効に利用し、相互貸借を行っていた園があったが、園全体としては、少なかった。

年間の絵本の購入冊数は、20冊未満～150冊以上と幅広い購入である実態がわかった。

学生が、今後の課題にあげた内容は、絵本の読み聞かせをする前後の言葉かけの方法、読み聞かせ前後のルールづくり、絵本の選び方や読み方に不安を持っていることであった。

以上のように、学生が実習した幼稚園（私立）では、絵本・紙芝居が、積極的かつ有効に、園児に活用されている実情を知ることができた。

10. おわりに

今回、幼稚園と図書館に共通する資料の提供と利用の重要性を、学生の幼稚園実習（私立）の実態調査を通してまとめることができた。

当初、『図書館サービス論』の授業のなかで、調査結果を発表してもらい、情報交換を予定していた。しかし、公共図書館のサービスに関するレポート発表に時間を取られ、各幼稚園の情報交換ができなかった。

学生の実態調査レポートは、自由記述式、自由筆記としたこともあり、冊数、排架法、整理法、貸出法等の一部の項目を除いては、解釈の違いもあり、正確な集計とはならなかったことが残念である。それでも、提出された内容を読み取り、整理をすることで、幼稚園の絵本・紙芝居の利用の実態をある程度、把握できたものと考えられる。

実習園調査のなかで、絵本については、「絵本が少ない」、「絵本が古い」という意見が出されていた。また、読み聞かせにおける一日の教員の負担も大きいことがわかった。

「絵本が少ない、古い」の意見の打開策として、

新刊絵本の購入が十分できない園では、市町村立図書館を有効に利用していた。

公共図書館が隣接している立地だったこともあり、毎週、貸出、訪問による利用である。

資料の不足、新刊絵本の購入問題を回避するためには、地域の公共図書館からの貸出を積極的に利用することで、園児の読み聞かせに活用することができるのではないかと考える。

「図書館法」 図書館奉仕 第3条に、「図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望に沿い、更に学校教育を援助し、及び家庭教育の向上に資すること」と規定され、そのなかの、「4. 学校に附属する図書館又は図書室と緊密に連絡し、協力し、図書館資料の相互貸借を行うこと」、「9. 学校と緊密に連絡し、協力すること」と言及している。⁴⁾

「連携・協力」に関して公共図書館では、幼稚園就学前の0歳児に対し、「ブックスタート」として、保健所と連携している。現在、720市町村自治体(2009年10月31日現在)で実施されている。⁵⁾

今日、公共図書館の児童サービスの貸出冊数の利用率も減少している。「児童書の占める割合は、1970年代に50%前後であったが、1990年代には30%まで減少した」⁶⁾

少子化の影響で2000年代は、更に減少が進み、30%を切っている。⁷⁾

幼稚園、保育園等に対しては、公共図書館との「連携・協力」を今以上に推し進め、絵本・童話等の新刊資料の利用が図れるのではないかと考える。また、資料を大切にするマナー教育についても、継続的な訪問により、身につけることが可能と考える。公共図書館にとっては、より一層の児童の利用率をあげることに繋がるだろう。

教員の読み聞かせの負担については、ボランティア等の支援が有効ではないかと考える。

ボランティア、保護者、小学校の支援を受け入れていた園が、4校あった。今日、公共図書館のほか、小学校、中学校へのボランティア活動が広がっている。

「2009年学校図書館調査報告」によれば、ボランティア活動は、小学校で7割以上、中学校で2割以上が活動し、主な内容は、小学校で「読

書活動」が約9割、中学校で「本の整理・整頓」が約6割である。⁸⁾

幼稚園においても、積極的にボランティアによる支援が行われ、教員の負担が軽減されることを願っている。

幼稚園実習において、「司書資格」との共通性(2・調査の目的)がどれくらい理解され、身についたかは確認がとれていない。卒業までに、意見交換を実施する予定である。調査結果の課題についても検討したい。これからも、「司書資格」を受講する学生のみならず、大学図書館を利用する全学生に対して、公共図書館との「連携・協力」、「ボランティア活動」等、児童サービスの利用の有効性を働きかけていきたいと考えている。

謝辞

幼稚園実習にあたり、各実習園に対しまして、学生の調査レポートに快くご協力を賜りました。末尾をもちまして、各教員の皆さまに心より、感謝を申し上げます。なお、実態調査の集計につきましては、個人情報には十分配慮しました。

註

- 1) 文部科学省 「学校教育法」 第3章 幼稚園 第23条 4
- 2) 文部科学省 「幼稚園教育要領」 第2章 ねらい及び内容 言葉 1ねらい 2内容 3内容の取扱い
- 3) 6) 堀川照代 『児童サービス論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズ II:11) 日本図書館協会 2009
- 4) 文部科学省 「図書館法」 第2章 公共図書館 図書館奉仕 第3条 4、9
- 5) 参考サイト：<http://www.bookstart.net/local/index.html>
- 7) 日本図書館協会編 『図書館年鑑 2009』 日本図書館協会 2009
- 8) 全国学校図書館協議会編 「2009年学校図書館調査報告」『学校図書館』No.709,2009. 11,p.51-52.